【町長挨拶】

3月は卒業式、4月は入学式。まさに一期一会の別れと出会いがあります。年度初めの定例記者会見ということになりますのでよろしくお願いいたします。

今年度から第 8 次矢巾町総合計画がスタートいたします。そのスローガン「みんなで築く 躍動感あふれ幸せな未来へ進化するまち やはば」ということでこれを我々の大きな柱として 8 年間にわたって、一つひとつ丁寧にこれから対応して参りたい。その中でも、地域コミュニティの再構築の元年として取り組んでいく覚悟でございます。

【内容発表】（担当者が詳細説明）

１　がん患者医療用補正具購入費助成事業について（健康長寿課）

令和 4 年 4 月から医療用ウィッグ購入費助成事業を実施しておりますが、令和 4 年 4 月から新たに乳房補正具購入費助成事業も実施します。対象は以下のいずれにも該当する者とします。(1)がんと診断され、医療機関において治療を受けた又は受けている者。(2)がんの治療による乳房切除手術を受けた者で、乳房補正具を購入した者。(3)申請を行う医療用補正具について過去に本町及び他の市町村で助成金の交付を受けていない者。本事業ではがん患者の経済的な負担を軽減するとともに、療養生活の質の向上及び社会復帰の支援を図ることを目的とします。助成対象金額は女性対象経費の 2 分の 1 の額です。乳房補正具については右側及び左側それぞれ上限 2 万円です。助成回数は医療用補正具 1 種類につき 1 回限りとなっております。

２　こども家庭課の設置について（こども家庭課）

児童福祉法の改正により、こども家庭センターの設置が努力義務となりまして、矢巾町では令和 6 年度 4 月からこども家庭センターの機能をもつこども家庭課を設置いたしました。従来の健康づくり部門の母子保健と児童福祉の部門が一体となって、すべての妊産婦、子育て世帯、こどもに対し支援の充実と強化を図ります。こどもが一人の人間として自分の人生を歩むことができるように、すべてのこどもの幸せを目指して、育ちの支援に取り組んで参ります。母子保健機能に 8 名、児童福祉機能に 7 名の職員がおります。それぞれ今までの業務もありますが、さらに情報を共有しながら、今後の事業の持ち方、住民の支援の仕方についてさらに検討を進めて参ります。

３　矢巾町徳丹城春まつりの開催について（文化スポーツ課）

令和 6 年 4 月 27 日に「第 18 回矢巾町徳丹城春まつり」を開催いたします。徳丹城春まつりは史跡徳丹城跡を会場に歴史文化に親しむまつりを開催することにより、徳丹城跡公園の活性及びまちづくりに役立てることを目的としております。今年も屋台村、フリーマーケット、クラフト市とたくさんの出店がございます。ステージイベントとしまして、西徳田伝統さんさ踊り、岩手医科大学さんさ踊り部による郷土芸能の演舞、町内 8 保育園による郷土芸能やダンス、不来方高校音楽部による合唱等がございます。また、久しぶりに餅まきを行います。そして今年も平安衣装を着た行列が会場を練り歩く平安行列を開催します。この機会により多くの方々に来て頂ければと思い、たくさんの方のご来場をお待ちしております。

４　2024 Wings for Life World Run（矢巾会場）の開催について（文化スポーツ課）

ワールドラン矢巾会場実行委員会では、「Run for those who can’t / 走れない人の為に走る」をテーマに、エナジードリンクメーカーであるレッドブルが開催し、同企業の基金を通じて「脊髄損傷再生治療研究支援」することを目的としたチャリティーマラソンイベントの趣旨に賛同し、下記のとおりワールドランを実施いたします。日時は令和６年５月５日(日)午後８時スタートとなります。レットブルの本社があるオーストリア時間午前 11 時に世界各国の会場で同時開催となります。
会場は矢巾町流通センター内、盛岡卸センター周辺の約 1km コースが会場となっております。申込は定員 200 名、ワールドラン公式ホームページから承ります。主催はワールドラン矢巾会場実行委員会。共催はレッドブルジャパン、矢巾町参加費は 3,900 円となっており、今年は大会Ｔシャツがもらえることになっております。

【質疑】

≪がん患者医療用補正具購入費助成事業について≫

●記者
全県での導入状況はどうなっているか。

●担当者
こちらは県の補助事業が令和 6 年度から開始することに合わせて矢巾町でも今年度から開始することになっております。乳房補正具の事業については、令和５年度の時点で県内 12 市町村で実施しております。

≪こども家庭課の設置について≫

●記者
今の時点で新たに考えている取り組みや事業はありますか。

●担当者
まずはもともとの活動を着実にやるところが重要と考えております。組織の安定を図ったうえで住民のニーズを伺いながら、親子に対する地域の役割を見定めて行きたいと考えております。

≪矢巾町徳丹城春まつりの開催について≫

●記者
春まつりで新たにやる取り組みや推しポイントを伺う。

●担当者
コロナ以前でやっていた餅まきと岩手医科大学のさんさ踊りの再開、新たな取り組みとして、小説家綿世景さんのトークショーを行います。

●記者
出店はどれくらいを予定しているか。

●担当者
出店は 22 店舗、フリーマーケット 60 区画設けており、申し込みで 2/3 程度埋まっております。クラフト市は 20 区画を予定しております。

≪2024 Wings for Life World Run（矢巾会場）の開催について≫

●記者

県内で他に開催したことはあるのか。

●担当者

県内では昨年、矢巾町で初開催し、今回で 2 回目となります。東北では矢巾町のみの開催です。

●記者

開催に至る担当者の思いについて伺う。

●担当者

全世界同時にいろんな国や境遇の人たちが、走れない人のために走るというチャリティの思いに共感したため。

●記者

イベントの周知について伺う。

●担当者

SNS による周知と、現在作成中のチラシの掲示を予定しています。

●記者

昨年の参加状況について伺う。

●担当者

200 名の申し込みに対し、来場は 150 名程度。専用のアプリでどこからでも参加可能のため、残りはそちらでの参加が考えられる。

≪その他≫

●記者

地域コミュニティの再構築について、住民との対話が重要になってくると思うが、そのあたりの思いや計画を伺う。

●町長

昨年より 2 自治会(南矢巾 8.9 区自治会)増え 43 自治会(藤沢自治会・南矢巾 10 区も含めると 45 自治会)で年度スタート。コロナ禍で住民との対話ができなかったが、旧町民懇談会、現コミュニティワークショップを開催していく。いま一番大事にしていきたいのは双方向のコミュニケーション。これがいままで閉ざされておったので、何としてももう一度掘り起こして体制整備していきたい。もう一つはワンストップサービス。矢巾町には役 20 名の管理職がいるが、それを各自治体のトップとして張り付ける。そして職員約 200 名にも地域コミュニティの現状を知ってもらいたいので各自治体に張り付ける。それは地域を知らなければ災害時など対応に困る。新しい職員には災害時には電話当番をしてもらいたいので、地域のことがわかるようにしてもらいたい。

また、コロナ禍で保健師がでることができなかったが、矢巾町でも引きこもりや孤独死、孤老死が増えてくると思います。そういう実情をしっかり把握できるように、コミュニティがしっかりしていなければだめだ。周辺部では空き家が増えてきてい

る。お年寄りはお店が減って買い物ができない。免許証返納すると足がなくなる。そういう実状をしっかり把握して対応していきたい。

●記者
能登地震・台湾地震への支援について伺う。
●町長
能登の被災地へ職員２人派遣、シャワーを２台貸し出し（北上の会社を通して）、義援金、学校 JRC からの募金など、できることは何でもやりたいと考えている。
矢巾町にも給水車はあるが、盛岡だけで対応できるということで派遣はしていない。
台湾地震については盛岡市が花蓮市と友好交流しており、盛岡広域圏として盛岡市と協議中。東日本大震災などでお世話になったのでｻﾎﾟｰﾄについては協力していきたい。

（10：00 終了）